

みやぎ復興パーク通信

みやぎ復興パーク活用レポート

株式会社 O L P A S O 編

＜事業概要＞

代表の佐藤氏は、8年間勤務していた民間医療システム会社が倒産し、携わってきた医療システムの技術と特許の一部を佐藤氏が引き継ぐ形で本格的な事業を進めるため平成20年度宮城・仙台富県チャレンジ応援基金助成金事業にMTD（モービルチューブディスプレイ）の開発及び製造販売をテーマに申請・採択となった。

その後、平成21年5月に株式会社OLPASO（オルパソ：頑張る「オーレ」、歩く「パソ」のスペイン語を掛け合わせた造語）を設立。病院内の採血管準備装置、トレイ搬送自動採血台、バーコードラベルプリンターの企画・設計、製造・販売を行っている。

その後、確実なビジネスプランの展開に向けて起業家育成講座や実践経営塾を積極的に受講した。特に実践経営塾では、主に販路開拓について相談を重ね、平成24年11月、白幡シニアアドバイザーの紹介により県内製造業者と製造委託契約の締結に至った。

現在では、仙台市内の検診センターに導入しているほか、平成29年2月には塩竈市内の病院への導入が決定しているなど着実に販路が拡大している。

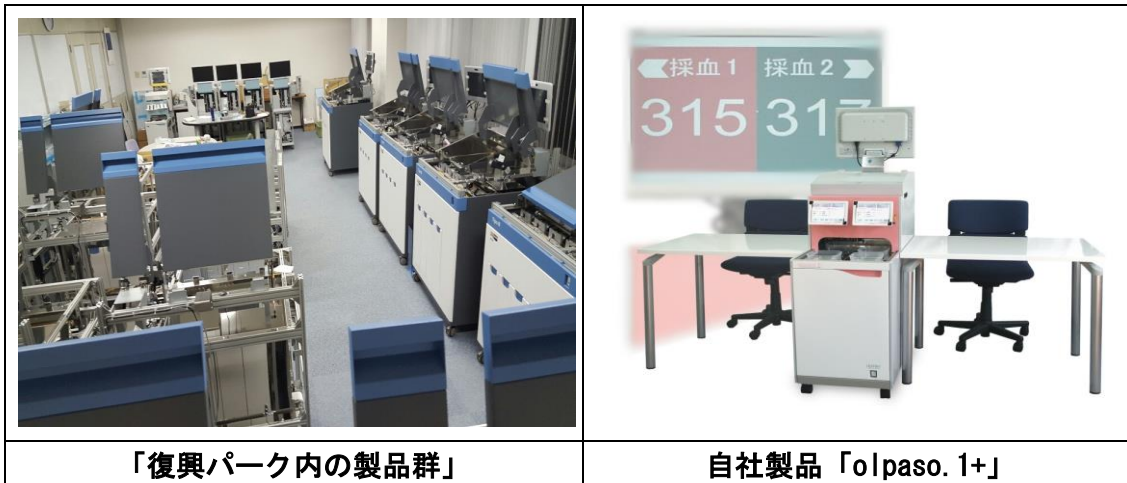
また、九州の大手医療システムメーカーとも業務提携を結び、200床以上を保有する中規模病院への導入が進んでいる。当社の販路開拓は国内に留まらず、韓国で500床以上を保有する大規模病院に導入した。平成26年には、患者の待ち時間の短縮を目的に、病院で採血を行う際に必要な採血管に識別ラベルをリアルタイムに貼り、患者ごとにトレイに準備する装置の製品化を行い、その販路開拓を目的に国際医療機器展示会MEDICA（ドイツ）に出展した結果、中国、トルコ、スペインなど海外との代理店網の構築が進んだ。

＜みやぎ復興パークへの入居＞

当社は、起業相談、助成金活用、専門家の助言など当機構の各種制度を活用している中で、事務所を仙台市の五橋に構え、製造する装置の組立て作業や完成品の在庫管理ができる工場を探索していた。

当初は、自宅から近い青葉山研究会館などを検討していたが、空室が狭かったことから入居を断念。その後、当機構職員が多賀城のみやぎ復興パークを紹介したところ負担金が低価格であり、防災などセキュリティが確保されていることから、工場とし

て最適な場所と判断し、平成28年1月に入居。現在、外注委託による装置の組立てと完成品設置で活用している。



《OLPASO 様からのご挨拶》

貴機構には、起業する段階からいろいろと親身になって相談に乗っていただき、おかげさまで、国内・海外とも販路が広がりつつあります。

工場についても、みやぎ復興パークは製品の組立て作業や在庫管理に有効に活用させていただいております。

今後、大規模病院をターゲットにして、タイ、南米、メキシコにも代理店網を広げていきたいと思っています。

また、将来的に採血管をロボット搬送できるシステムの開発を目指しており、これにより従業員も増やすなど、少数精鋭ながらも医療システム専門の技術者集団を目指していきたいと思っています。今後ご支援のほどよろしくお願いいたします。



「国際医療機器展示会MEDICA」の様子



代表取締役 佐藤 満氏（右から二人目）

＜株式会社OLPASO＞

平成 28 年1月復興パーク入居
〒985-0842 多賀城市桜木 3-4-1
みやぎ復興パーク H-24 号館 4F
Tel 022-397-9370

【発行及び復興パーク通信のお問合せ先】

公益財団法人みやぎ産業振興機構 産学連携推進課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 14 番 2 号
TEL 022-225-6638 FAX 022-263-6923

(みやぎ復興パーク・平成 28 年 12 月の状況)

○入居者数・・・・・・・・ 26 団体 (入居率 54%)